



南千住花まつりえんにちで 多くのご利益を！

「楽しんでご利益を」

4月17日（日）に延命寺境内にて「花まつりえんにち」が開催されます。



荒川区の文化財でもある延命地蔵は、徳川幕府の八代將軍吉宗の時代、寛保1年（1741）に刑死者や行き倒れの無宿人などを回向するという心で町民達が発願し建立したもので発願者の名前（深川の木工町の喜之助・木船町の頃五郎衛門・花町の利右衛門・横山町の長左衛門・相模屋の七左衛門・伊勢屋の新人）が台座に大きく刻まれています。この石地蔵は、江戸時代は小塚原仕置場であった現在の鉄道路線の上にあったのですが、明治28年（1895）に日本鉄道の土浦線の敷設により現在の場所に移転しました。また、石地蔵の左側に立っている御題目塔は、都営住宅近くの都バスの発着場にあった法華庵「日蓮宗」のお寺に建てられていたものを移動したものです。回向院、延命寺（回向院から分離独立）が浄土宗ですので日蓮宗の御題目塔が存在するのが不思議に思われますが、このような事情で現在があるのです。（コツ通り一口話より）

「空襲の時、お地蔵さんの所に逃げた人達は助かりました」

延命地蔵は27個の花崗岩の寄せ石造りでできています。高さは一丈二尺、約3.6mで、重さは70トンあります。関東大震災や東京大空襲でコツ通りが全滅しても、無傷でした。東日本大震災の2回目の揺れで延命地蔵の左手が音もなく、すっぽりと外れ落ちました。不思議なことに

宝珠（頭部がとがり、その左右両側から魂が火炎が燃え上がっている表現したもので、願いをかなえてくれる不思議な玉）を持った左手は無傷でした。他のお寺では、墓石が倒れたりした所もありましたが、延命寺（浄土宗）の墓石は、倒壊など被害はありませんでした。

「子供のころ、お地蔵さんに助けられました」

地蔵菩薩は、大地が全ての命を育む力を蔵するように、苦悩の人々をその無限の大慈悲の心で包み込み、救う所から名付けられたとされています。一般的には「子供の守り神」です。

延命地蔵は身替り地蔵です。

スーパーボール、ヨーヨー釣り（100円）他に射的、輪投げ、ガチャガチャ、スマートボール等



（50円）で子どもたちが遊ぶ姿を見守ってくれます。12時と14時から新鮮な野菜の販売が

あり、13時から民謡、舞踊のショーがあります。

また、普段出会う事がない浅草ブラジル料理「ギボン」のキッチンカーや世界3位のピザ職人岡田智志さんの「オカピート」が荻窪から出店、インドレストラン「フルバリ」のグルメも当日出会うことができます。

延命寺では花まつり縁日限定朱印（16枚300円）や身替り地蔵キーホルダー・お地蔵ベーマが各500円でお求めできます。「フードドライブを行います」

ご家庭で余っている食品（缶詰・レトルト食品など賞味期限まで2ヵ月以上ある常温保存可能食品）がございましたらご持参ください。福祉団体や必要とされる方に寄付致します。延命寺の花まつりえんにちにいらして、笑顔のこぼれる一日を過ごしてみませんか。

日時：令和4年4月17日（日）11～15時 雨天決行
場所：延命寺境内 南千住2-34-5
（日比谷線南千住駅南口徒歩0分）※駐輪場あり
お問合せ：3807-0897
※マスク着用と手指消毒、37.5℃以上の発熱ある方はご入場ご遠慮お願い致します

